

昆虫⑤ 集団で冬を越すチョウ「ムラサキツバメ」

参事 畑田 健治

1 ムラサキツバメの横顔

- ムラサキツバメは体長約 20 mmの小さなシジミチョウ科のチョウです。
- 後ばねには尾があります。メスは前ばねの中央部が鮮やかな紫色で、オスは全体が暗い紫色をしています。
- 幼虫はマテバシイやシリブカガシの若葉を食べて育ちます。



写真1 ムラサキツバメのオス

- ムラサキツバメは集団で冬を越します。
(集団越冬)

2 集団越冬の様子

○ 昨年(平成17年度)

県立博物館の西側に建っている旧考古資料館前庭で平成17年11月22日にバナナ

の葉の上の5頭の集団越冬を確認したのを始めとして、3月中旬までに、県立博物館の近くの城山遊歩道で複数の集団越冬の群れを確認しました。

○ 今年(平成18年度)

平成18年11月22日に旧考古資料館前庭のクマタケランの葉(表側)で20頭の集団越冬を確認しました(写真2)。

写真2 平成18年11月22日撮影
葉はクマタケラン

鹿児島の動物④ むじな (アナグマ)

脊椎動物担当 中間 弘

「犬くらいの大きさの、山にいる哺乳類は…」と言われて思いつくのは、タヌキ、キツネ…、そして「むじな」「むんな」。聞いたことはありませんか? 「むじな」は別名で、この動物の和名はアナグマです。

アナグマは、タヌキとよく間違われます。大きさや毛並み、顔に黒い模様があることといい、確かにタヌキに似ていて、両者を区別しない地域もあります。実はタヌキはイヌ科で、アナグマはイタチ科と、少し縁の遠い動物です。見た目での違いは、タヌキの顔の黒い模様が目の周りに丸くあるのに対し、アナグマの顔の模様は目から後頭部にかけて筋状に入っていること、アナグマのほうが足が短く、ずんぐりとした体型に見えることです。また、タヌキは雑食で家の鶏を食べたり畑の野菜を食べたりするのに、アナグマはミミズや昆虫を主に食べる、割におとなしい生き物

です。しかし、ミミズ探しに畑を掘り返すので、農家には大いに嫌われ者ですが…。

斜面や木の根元に巣穴を掘り、行動は夜行性です。ほとんど足音もたてず、



ゆっくりと餌探しをするので、気づかぬうちに近くにいてビックリすることがあることから、昔から気味の悪い動物として敬遠する地域もあるようです。

ここ2~3年、アナグマが増えてきているようです。宵の口に、山の麓を探すと出会える確率が高いですので、一度アナグマ探しに挑戦してみたいはいかがですか!

(写真は開聞山麓にて)